

令和4年度病害虫発生予察特殊報第2号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和4年度 香川県病害虫発生予察特殊報 第2号

1. 病害虫名： キュウリ退緑黄化病 (*Cucurbit chlorotic yellows virus* (CCYV))
2. 発生作物： キュウリ
3. 発生地域： 西讃地域
4. 発生経過  
令和4年6月上旬に西讃地域のキュウリ施設栽培圃場において、葉に退緑・黄化症状を呈する株が確認された(写真1)。  
当所で発生株をRT-PCR法により検定した結果、ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるキュウリ退緑黄化病であることが判明した。
5. 国内における発生状況  
本県で本病が確認されたのは初めてである。本病害の特殊報は、平成20年に熊本県で初めて発表され、これまでに、九州全県、中国・四国地方、関東地方等の計23府県で発生が確認されている。
6. 本病の特徴  
発生初期は、葉にうすい緑色の小さな斑点を生じる。症状が進むと斑点が拡大し、葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化する。黄化葉は、葉縁部が下側に巻く症状を呈する。本病害は、定植直後から収穫終了時まで発生するが、感染時期が早いほど草勢低下による減収率が上昇する。また、ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病の初期病徴に似ている。
7. 病原ウイルスの特徴及び伝搬方法
  - (1) 本ウイルスは *Crinivirus* 属に属し、タバココナジラミ(バイオタイプQ及びB)により半永続伝播(ウイルス媒介能力が数時間から数日間保持)される。経卵伝染、汁液伝染、種子伝染及び土壌伝染はしないと報告されている。
  - (2) 自然感染が確認された作物は、キュウリ、メロン及びスイカである。接種試験ではウリ科、ナス科、アカザ科など広範な植物に感染することが確認されている。
8. 防除対策
  - (1) 施設開口部への防虫ネット(目合い0.4mm以下)の展張や、黄色粘着トラップの設置などにより、タバココナジラミ成虫の侵入防止と密度低下に努める。
  - (2) タバココナジラミは雑草にも生息するため、圃場内及びその周辺雑草を除去する。
  - (3) 本ウイルスに対する登録農薬はないので、媒介虫であるタバココナジラミを対象に、定植時のネオニコチノイド系粒剤の施用や生育期間中の定期的な薬剤散布を行う。特に、定植直後の感染は大きな被害につながるため、この時期の対策を重視する。なお、薬剤の使用にあたってはコナジラミ類に登録のある農薬を使用するとともに、薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統薬剤の連用を避ける。

- (4) 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、ビニル袋に密閉して圃場外に持ち出すなど、適切に処分する。
- (5) 栽培終了後は、2週間程度施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、施設外への拡散を防ぐ。



写真1 葉の退緑黄化症状

病虫害防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>

